

平成 31 年度使用高等学校  
(第 1 部)  
教科書編集趣意書

外国語（コミュニケーション英語Ⅰ）編

目次

ページ

|  |   |
|--|---|
| 177 増進堂 NEW STREAM English Communication I ..... | 1 |
|--|---|

| 発行者の<br>番号・略称  | 教科書の<br>記号・番号 | 教科書名   |
|----------------|---------------|--|
| 177<br><br>増進堂 | コ1 3 2 2      | NEW STREAM<br>English Communication I<br><br>代表著作者 鈴木 寿一 |

#### 編集の趣旨及び留意点

どちらかと言えば英語に苦手意識を持つ生徒を対象に「本当に生徒のためになる英語教育」を実現できる教科書にするために、次の4点に配慮して編修した。

4技能をバランスよく伸ばし、話し手や書き手の意図を理解するだけでなく、それに対する自分の考えを発表できるようにするための教材と課題を数多く用意して、コミュニケーション能力を伸ばせるように構成すること。

生徒が新しいことを学び、学んだことをさらに深く掘り下げて考え、英語に対する興味・関心を持つことができる豊かな内容を持つ教材を提供すること。

生徒の立場に立った学びやすい教科書、学び方を学べる教科書にすること。

生徒が題材に興味・関心を持つように視覚的に工夫すること。

#### 編修の基本方針

編纂に際しては、次の3点を基本方針とした

学習指導要領並びに教育基本法第2条第1号から第5号の各号に書かれた目標を実現できるように、素材を厳選するとともに、各素材にその目標を達成するために有効な課題を用意すること。

生徒の多様な実態に応じて、弾力的な指導や学習ができるように、様々な工夫を盛り込み、効果的な指導や学習が可能ないように構成すること。

本教科書を用いて指導しながら、多忙な教員でも、新しい指導法や指導技術を学ぶことができる「教師も学べる教科書」にすること。

#### 特に意を用いた点や特色

生徒にとって学びやすく、学び方も学ぶことができる教科書、教職経験が少ない教員でも一定レベル以上の指導が可能で、新しい指導法を学べる教科書を目指して、次のような工夫をした。

英語学習の基本と考えられる発音、音読の練習法、フレーズリーディングの方法などを明示し、それらを用いて全Chapterを学習できるようにした。

生徒が学習する際、あるいは教員が指導する際、何をすればよいかを明らかにした。本課の各パートごとに、大まかな内容についての日本語による質問などで、予習すべきポイントを明らかにした。

復習の方法を明らかにした。REVIEWでは、Comprehension 1で本文全文の通読をすることで、全体の英文の流れや意味内容を再度把握させたあと、2 (Summaryなど)を完成させるように構成した。

文法事項や重要表現は、各Chapterの学習前、各パートの本文とその対向ページ、そして、本文の学習後の4箇所、簡潔な解説とともに、音声も用いた練習など、様々な形で繰り返し学習できるように工夫した。

各Chapterの工夫として、理解力とともに、英語による発表力も伸ばせるように、GET READYで重要文法事項を導入し、本文学習ページでは、インプット中心のFor Comprehensionとアウトプット中心のFor Interaction、そして本文中で用いられた重要表現をまとめたGRAMMAR & EXPRESSIONの3部構成とした。本文学習後は、REVIEWで語彙、本文内容のまとめ、文法表現練習、最後にACTIVITYで発展的な学習ができるように構成した。以下、各項目についての工夫を述べる。

GET READY...ポイントとなる文法事項を、可能な限り状況が明確な対話や短い文章をリスニングさせたり書き取らせて導入した後、音読で定着をはかり、スピーキングでアウトプットさせて、文法を4技能と結びつけて導入する。

For Comprehension...1st Readingから4th Readingまでの4ステップで、徐々に内容理解を深めていく方式を採用。1st Readingでは概要を、2nd Readingでは要点を問い、それぞれ日本語で応えるようにし、3rd Readingでは英語によるTrue or False Quiz形式で細部について内容理解を試し、4th Readingでは英文中の語句の内容について尋ね、概要から要点、そして細部の内容理解を確かめるための各ステップに設問を数問ずつ配し、英文を繰り返し聴いたり、読んだりする機会を保障できるようにした。

For Interaction...音読から再生を中心とするアウトプット活動、自分の考えを述べる産出を中心とするアウトプット活動から成る。まず、Reading Aloudでは、理解した英文で用いられている言語材料の内在化と、もう一度本文全体に戻って理解した内容を整理することを狙いとしてFor Comprehensionで理解した英文を繰り返し音読する。そして、その後のQ & Aでは、教科書を見ないで、本文の内容に関する英語の質問に英語で答える再生を中心としたアウトプット活動、本文の内容に関して推測したり、自分の考えを述べるWhat do you think?など、英語の発表力を伸ばすように構成されている。

GRAMMAR & EXPRESSION...左ページの本文に現れた重要な文法事項や表現を提示し、その表現が本文中のどこに出てきたかを探させてスキミングの練習をする機会を与えたり、日英左右対称にして、ペアワークで「日英通訳演習」が可能にして、学習した言語材料が定着するように構成している。

REVIEW...各Chapterの全パートの学習後、再度、各Chapterで学んだことを全体を通して復習する機会を与えるために、Vocabulary、Comprehension、For Grammar & Expressionで構成している。Vocabularyでは、本文で出てきた重要語の定義を英語で与え、それがどの単語かわからなければ、該当パートの本文を再度読んで単語を探す過程で語彙力の強化を図る。Comprehensionでは、本文全体を再度読んで内容を確認したあと、空所に適切な英語を記入して要約文を完成する活動が中心となっている。右ページのGrammar & Expressionでは、各Chapterの重要文法事項や重要表現をリスニング、ライティングを中心に復習できるようにしている。

ACTIVITY...学習指導要領にある「言語の使用場面と働き」を結びつけた活動を実際に生徒に経験させることによって、「実践的コミュニケーション能力」を伸ばすための活動として、各課にActivityを設置した。Activityは、1つまたはそれ以上の技能を用いたコミュニケーション活動とし、各課の題材内容と関連のあるものを用意した。